

分散型マルチメディアプラットフォームの開発

宗森 純 吉野 孝 長澤庸二

鹿児島大学

1. はじめに

鹿児島大学工学部情報工学科では、平成4年4月より、研究棟の新設にともない、教育用電子計算機システムを導入する[1]。本報告では、このシステムの計算機上に実装するソフトウェアである分散型マルチメディアプラットフォーム[2]について述べる。

2. 教育用電子計算機システム

本学科の教育用電子計算機システムのハードウェア構成を図1に示す。図1のなかで太線で囲んだ部分が分散型マルチメディアプラットフォームを実装する計算機(Macintosh)である。

3. 分散型マルチメディアプラットフォーム

本プラットフォームは6種類のソフトウェアから構成されている。開発に使用した言語はHyperTalk2.0及びHyperAppleTalkである。

[設計方針]

設計方針を次に示す。

- 1) 分散協調型及びマルチメディアを基本とする。
- 2) 3次元表示を取り入れる。
- 3) 簡素で使いやすいソフトウェアとする。

[実現機能]

本プラットフォームを構成するソフトウェアを表1に示す。

ソフトウェア種類	ソフトウェア名
3次元表示ファイルシステム	WildCard
マルチメディアデータベース	Wadaman
報告書作成支援システム	MISAWA HOME
電子会議システム	MYOnet
KJ法支援システム	GUNGEN
オブジェクト指向言語開発支援環境	Odin

表1 本プラットフォームのソフトウェア

4. 機能概要

従来のアイコンは2次元でディレクトリやファイルを表示したが、WildCardは3次元で表示する。WildCardでは画面上のある位置をクリックすると、その位置に対応する仮想的なカード(ファイルに対応する)が図2のようにせり上がり、"見出し"の部分が表示される。この画面ではマルチメディアデータベースであるWadaman[3]のカードの"見出し"が表示されている。この"見出し"の部分をダブルクリック

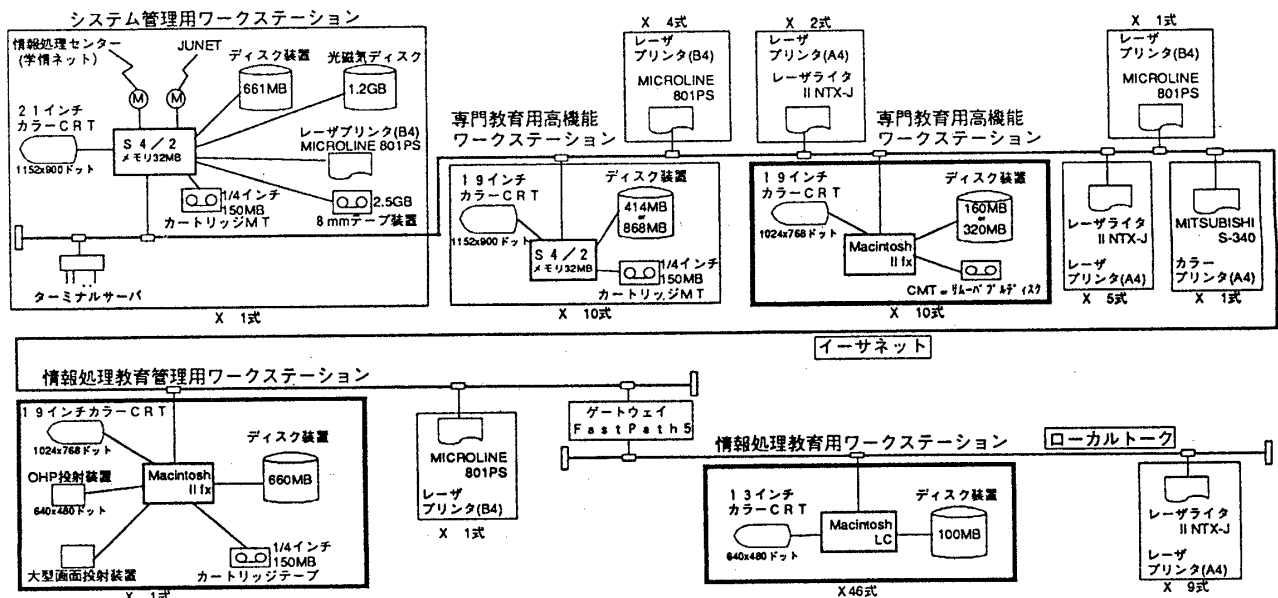


図1 教育用電子計算機システム構成図

Distributed Multi Media Platform

Jun MUNEMORI Takashi YOSHINO and Yoji NAGASAWA

Kagoshima University

